



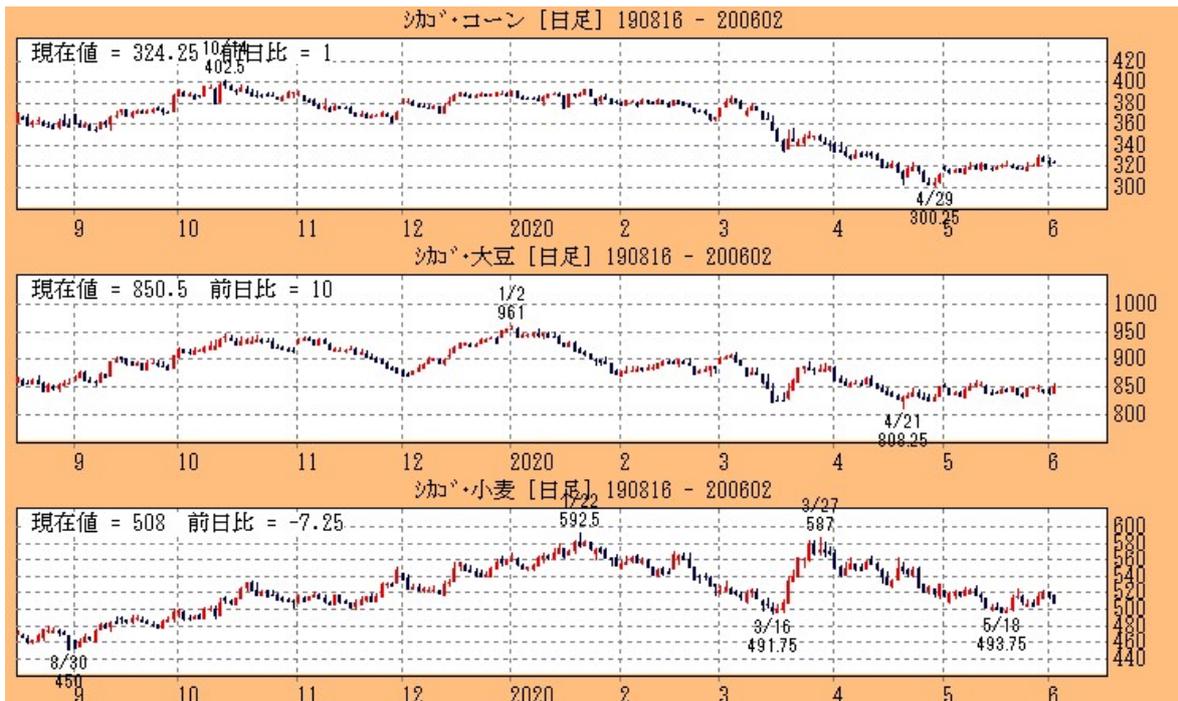
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシ、大豆ともに反発

発行日 : 2020/6/3



6月2日のシカゴトウモロコシ7月限は+1.00セントの324.25セント。7月限の取引レンジは3.25セントと狭いものだった。取引序盤は大豆の上昇に連れ高となり325台に乗せる場面もあった。原油高もエタノール生産用としての需要拡大期待を連想させる支援要因となった。ただ、米農務省が発表した作柄状況が良好で順調なペースで生育が進行しているうえ、作柄状況は「優」「良」の割合が74%と、前週の70%から上昇したことや、作付け進捗率は93%で、過去5年平均の89%を上回ったことから作柄懸念が後退し、上げ幅が限られた。下値は320セントが支持線として意識されているようで、米国が天候期に入っていることから押し目買いも入りやすい状況。

シカゴ大豆7月限は+10.00セントの850.50セント。前日に中国政府が大豆を含めた一部米国産農産物の輸入停止を主要国有企業に通達した伝えられたことから一時急落したが、中国の国有企業が1日、米国産大豆を少なくとも18万トン買い付けたと報じたことから買いが先行。そして、米農務省が2日、中国向けに米国産大豆13万2000トンの成約があったと発表したことから一段高となり、5月12日以来の高値まで上昇した。中国向けの需要拡大期待が強まったことが好感されたうえ、経済活動再開期待を受けた株高や原油高も支援要因となっている。

シカゴ小麦7月限は▲7.25セントの508.00セント。米国産冬小麦の収穫開始が順調に進んでいることが弱材料となった。米農務省が1日に発表した米国産冬小麦の収穫は5月31日までに3%完了し、過去5年平均の2%を上回った。



Crop Progress

トウモロコシ				18州
Planted (作付)	前年度	2020年度	過去5年平均	
4月12日	3%	3%	4%	
4月19日	5%	7%	9%	
4月26日	12%	27%	20%	
5月3日	21%	51%	39%	
5月10日	28%	67%	56%	
5月17日	44%	80%	71%	
5月24日	55%	88%	82%	
5月31日	64%	93%	89%	

トウモロコシ				18州
Emerged (発芽)	前年度	2020年度	過去5年平均	
4月26日	2%	3%	4%	
5月3日	5%	8%	10%	
5月10日	9%	24%	22%	
5月17日	16%	43%	40%	
5月24日	28%	64%	58%	
5月31日	42%	78%	73%	

大豆				18州
Planted (作付)	前年度	2020年度	過去5年平均	
4月19日	1%	2%	1%	
4月26日	2%	8%	4%	
5月3日	5%	23%	11%	
5月10日	8%	38%	23%	
5月17日	16%	53%	38%	
5月24日	26%	65%	55%	
5月31日	36%	75%	68%	

トウモロコシ						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
5月24日	1%	4%	25%	58%	12%	70%
5月31日	42%	4%	25%	58%	12%	70%
前年度	なし					

大豆				18州
Emerged (発芽)	前年度	2020年度	過去5年平均	
5月10日	1%	7%	4%	
5月17日	4%	18%	12%	
5月24日	9%	35%	27%	
5月31日	17%	52%	44%	

冬小麦				18州
Headed	前年度	2020年度	過去5年平均	
4月12日	5%	6%	7%	
4月19日	8%	14%	15%	
4月26日	16%	21%	25%	
5月3日	26%	32%	38%	
5月10日	38%	44%	50%	
5月17日	51%	56%	62%	
5月24日	63%	68%	72%	
5月31日	73%	77%	81%	

冬小麦				18州
Harvesed	前年度	2020年度	過去5年平均	
5月31日	1%	3%	2%	

春小麦				18州
Planted (作付)	前年度	2020年度	過去5年平均	
4月12日	2%	5%	9%	
4月19日	4%	7%	18%	
4月26日	11%	14%	29%	
5月3日	19%	29%	43%	
5月10日	38%	42%	63%	
5月17日	63%	60%	80%	
5月24日	80%	81%	80%	
5月31日	90%	91%	96%	

冬小麦						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
4月5日	2%	7%	29%	53%	9%	62%
4月19日	4%	9%	30%	50%	7%	57%
4月26日	4%	11%	31%	47%	7%	54%
5月3日	4%	10%	31%	48%	7%	55%
5月10日	5%	11%	31%	45%	8%	53%
5月17日	5%	11%	32%	44%	8%	52%
5月24日	5%	11%	30%	46%	8%	54%
5月31日	5%	11%	30%	46%	8%	54%
前年度	2%	7%	30%	48%	13%	61%

5月31日までの週のCrop Progressは、トウモロコシの作付けが93%で完了に近い（前年は64%、過去5年平均は89%）発芽は78%で前年の42%、過去5年平均の73%より高く、生育は順調である。作柄の優と良は70%ある。

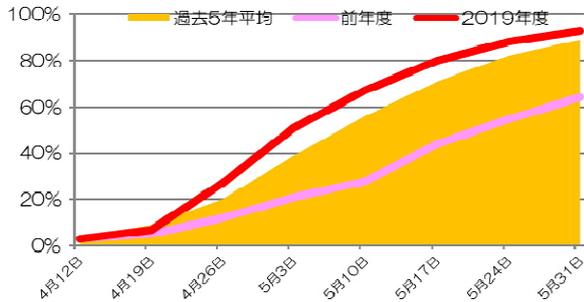
大豆の作付も75%完了し、前年の36%、過去5年平均の68%寄り早い。発芽も52%と前年の17%、過去5年平均の44%を上回っている。

春小麦				18州
Emerged (発芽)	前年度	2020年度	過去5年平均	
4月26日	4%	4%	7%	
5月3日	4%	6%	16%	
5月10日	8%	16%	29%	
5月17日	21%	30%	46%	
5月24日	41%	51%	65%	
5月31日	63%	67%	80%	



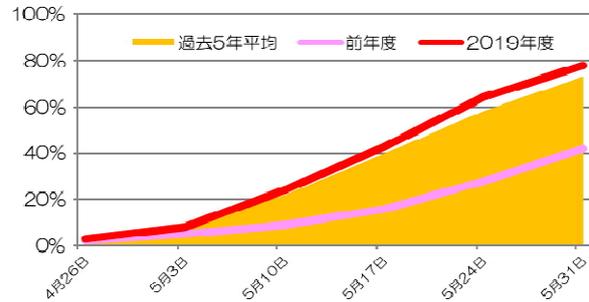
5月31日までのトウモロコシ

20/21年度の 作付 進捗状況



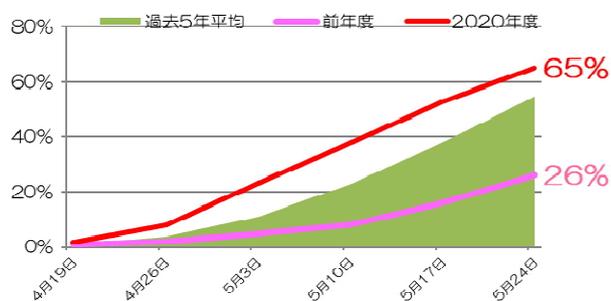
5月31日までのトウモロコシ

20/21年度の 発芽 進捗状況



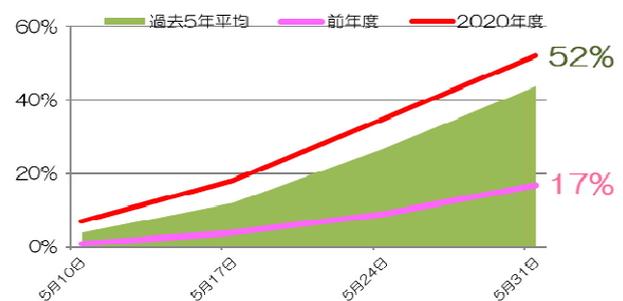
5月31日までの大豆の

20/21年度産大豆の 作付 進捗状況



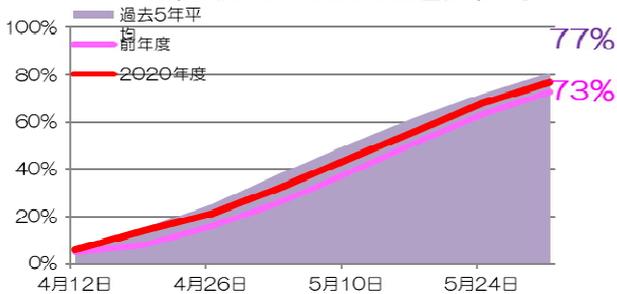
5月31日までの大豆の

20/21年度産大豆の 発芽 進捗状況



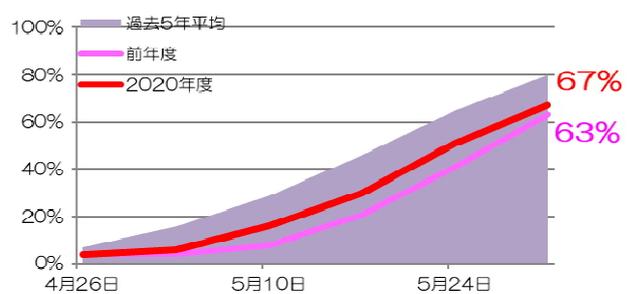
5月31日まで20/21年度米国産

冬小麦のHeaded進捗状況



5月31日まで20/21年度米国産

春小麦の作付進捗状況



TOPICS ブラジルの農産物生産と貿易の長期見通し

背景

ブラジル農業省の供給管理会社（The Brazilian Ministry of Agriculture's Supply Management Company: CONAB）は農業と家畜生産に関する長期需給見通しを公表した。この予想はUSDAのものと同様だが、2028/29年度まで長期にトウモロコシと大豆の輸出が急増すると見ている。CONABはトウモロコシと大豆の耕作面積と生産は、これまでの数需運転ほどではないがそれでも引き続きかなりの伸びを見せると予想している。以下は2020年2月に発行されたUSDAの予測と対比している。ここでは、綿花、ピーナッツ、米、ライ麦、燕麦、カノー油、大麦、乾燥豆、トウモロコシ、大豆、モロコシ、小麦、トリティカール、ひまわり、ヒマ（Castor Seed）の合計15品目について述べている。



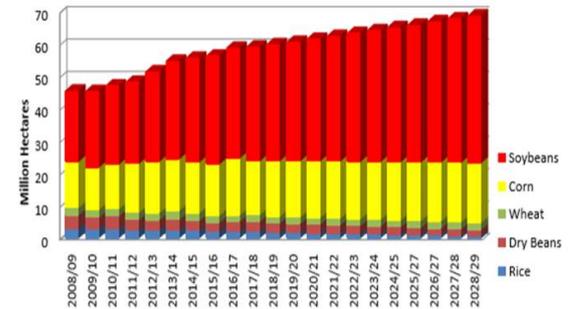
穀物と油糧種子の生産地域の伸びは+54%増

トウモロコシ、大豆、コム、小麦及び乾燥豆の5種類の生産地域は2028年までに+54%増加して6,860万ヘクタールになるとCONABは予測している。2008/9年度には4,540万ヘクタールであった。それでも、2028/29年度までの作付面積の増加ペースは、1975年から2017年の伸び率を少し下回る。（年率2.93%と年率3.09%）

CONABによれば、これは主に穀物の生産性が伸びたため、面積の拡張が少なくなったものと見ている。コム、乾燥豆、小麦の今後20年間の作付面積は、半減してコムは▲77%減少、乾燥豆は▲54%減少、小麦は▲9%減少する一方、トウモロコシは+30%、大豆は+109%拡張すると見られている。

15品目の合計作付面積は2028/29年までに7,250万ヘクタールになるとみこまれ、これは現在の作付面積より+900万ヘクタール多くなる。凡そアイオワ州一州が増えるイメージである。それでもこの増加率+15.3%は過去10年間の伸び率+30.1%の半分である。

主要穀物/油糧種子の作付面積の推移と予想



Data Source: MAPA

トウモロコシの作付面積は+30%、大豆は+109%増

トウモロコシ、大豆、コム、小麦及び乾燥豆の5種類の生産地域は2028年までに+54%増加して6,860万ヘクタールになるとCONABは予測している。2008/9年度には4,540万ヘクタールであった。それでも、2028/29年度までの作付面積の増加ペースは、1975年から2017年の伸び率を少し下回る。（年率2.93%と年率3.09%）CONABによれば、これは主に穀物の生産性が伸びたため、面積の拡張が少なくなったものと見ている。コム、乾燥豆、小麦の今後20年間の作付面積は、半減してコムは▲77%減少、乾燥豆は▲54%減少、小麦は▲9%減少する一方、トウモロコシは+30%、大豆は+109%拡張すると見られている。

15品目の合計作付面積は2028/29年までに7,250万ヘクタールになるとみこまれ、これは現在の作付面積より+900万ヘクタール多くなる。凡そアイオワ州一州が増えるイメージである。それでもこの増加率+15.3%は過去10年間の伸び率+30.1%の半分である。

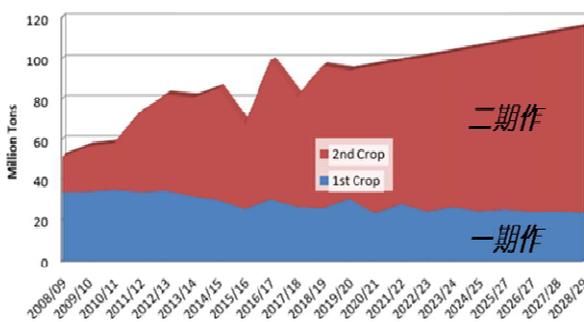
15品目の生産量は3億トンに+26.8%増となる

綿花、ピーナッツ、米、ライ麦、燕麦、カノー油、大麦、乾燥豆、トウモロコシ、大豆、モロコシ、小麦、トリティカーシ、ひまわり、ヒマ（Castor Seed）の合計15品目の生産量は、今後10年間で2億4100万トンから3億トンに増加する。作付面積の伸びは+15.3%で、生産量の伸びは+26.8%である。ただ、過去10年の生産量の伸びは58%であった。最も生産量が増加した地域は中西部地区で宇位で北部（アマゾン）地区である。

トウモロコシ

2028/29年度の実産量は1億1,450万トンになると思われる。ただ一期作目の生産量は長期的に低下している。一期作目は約66%を占めていたが、28/29年度までに21%に減少する。

トウモロコシの実産量



Data Source: MAPA/CONAB

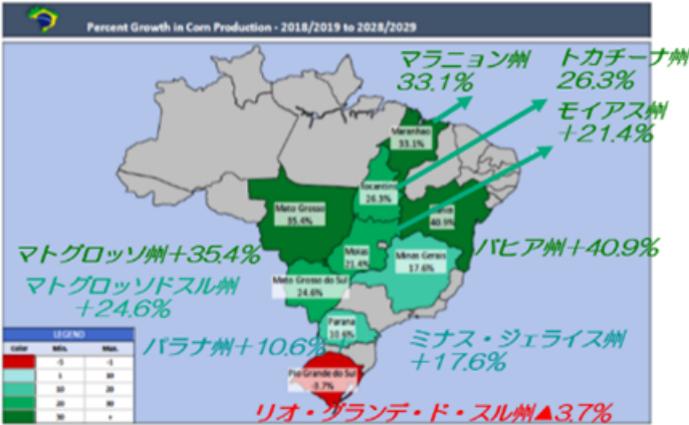
Data Source: MAPA/CONAB



Source: FAS/Brasilia Graphic based on CONAB Forecasts



トウモロコシの生産地ごとの割合



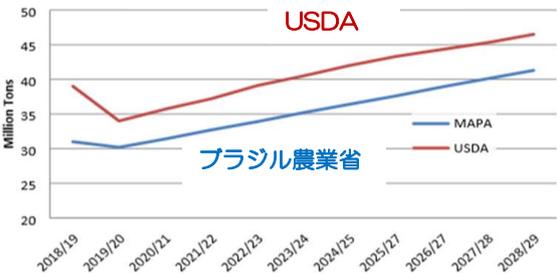
Source: FAS/Brasilia Graphic based on CONAB Forecasts

今後10年の生産の伸びは、中西部のマト・グロソ州とバハ州の北東部が最も多い。マトグロソ州が31%を占め最大の生産州で、2028/29年までに35%に増加する。

トウモロコシの輸出は年率+3.3%で伸びる

2028/29年度の輸出の見通しはCONABは+33%増と見ている。USDAの見通しでは+19%である。CONABは過去10年間の輸出の伸びを+236%としている。年率では過去10年間で年率15.4%の伸びで、今後10年間は年率+3.3%の伸びとしている。

トウモロコシ輸出量予想



Data Sources: MAPA/CONAB Agricultural Projections and USDA Baseline Projections

大豆の作付面積は+26.6%増、生産量は+33%増、

CONABは大豆の生産量は2028/29年度までに1億5200万トンになると予想している。18/19年に比べて+33%増である。過去10年間は+67%であった。

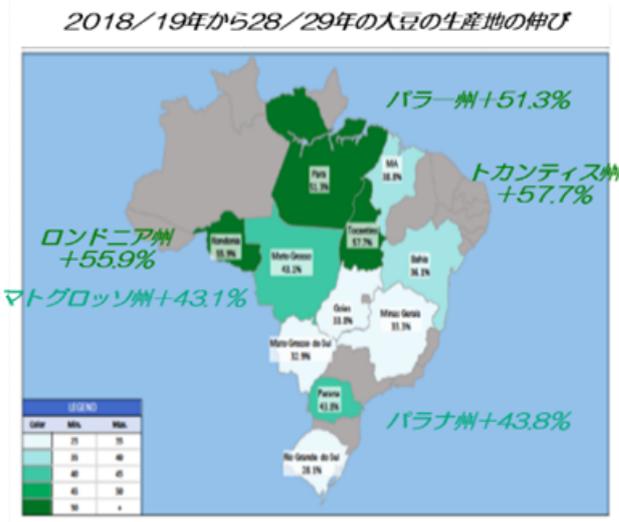
大豆のブラジル国内需要はトウモロコシの伸びより大きい。トウモロコシの+19.7%に対して大豆は+22.6%増である。CONABが予想する作付け面積は今後10年間で+26.6%増加する。

大豆の生産地域

大豆の生産地は、現在の牧草地帯が変わると見られている。新たに開墾される土地も多い。主にマトビバ地域（マラはオ、トカンティス州、ピアウイ州、バハ州）である。マトグロソ州でも牧草からの転換がなされている。



FAS/Brasilia Graphic based on CONAB Forecasts

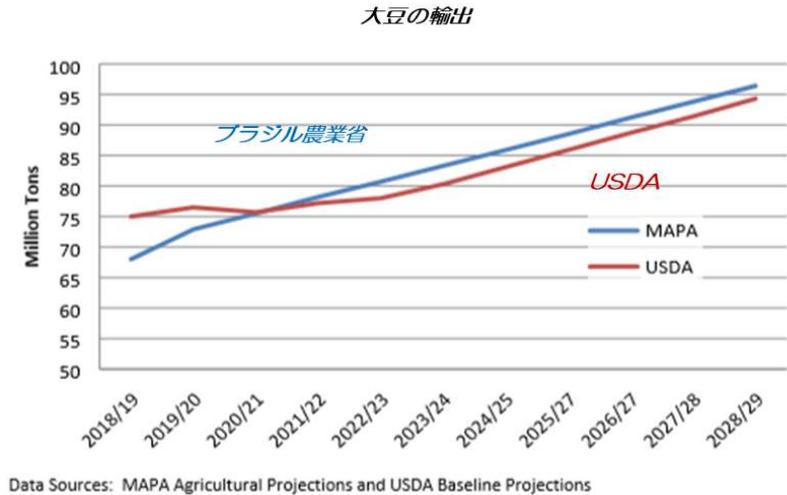


FAS/Brasilia Graphic based on CONAB Forecasts



大豆の輸出

CONABは大豆の輸出は+2,880万トン増加して、9,640万トンになると見ている。一方USDAは9430万トンと見ている。CONABは+42%の伸びを予想し、USDAは+26%を予想。



TOPICS 中国が米国からの一部農産物輸入を停止、貿易協定に暗雲—関係者

Bloombergによれば、中国政府の当局者は農業分野の主要国有企業に対し、大豆など米国産農産物の一部の購入を停止するよう伝えた。事情に詳しい関係者が明らかにしたもので、香港を巡る緊張悪化を中国政府は見極めようとしているという。

中糧集団（COFCO）と中国儲備糧管理（シノグレイン）は購入停止の要請を受けたと、非公開情報だとして関係者の1人が匿名を条件に述べた。

関係者によると、中国の買い手は米国産豚肉の購入も取り消したという。民間企業は購入停止を求められてはいないと、関係者の1人は語った。

米中間で1月に署名された第1段階の貿易協定を巡り、一段と暗雲が広がっている。

トランプ米大統領は5月29日、中国が香港の「国家安全法」を制定する方針を採択したことに対し、中国との対決姿勢をあらわにした。COFCOとシノグレインは中国の農産物輸入で中心的役割を担っており、29日は米国産大豆20~30カーゴについて価格を問い合わせていたが、トランプ氏が中国当局者への制裁の意向を示したことを受けて注文は見送ったと関係者の1人が述べた。関係者によれば、中国側はトランプ氏の出方を見守っている。

今後の予想

米国のクローププログレスは平年より順調に進行し、トウモロコシも大豆も発芽段階に入っている。トウモロコシの作柄は優と良が70%と十分である。今のところ穀物の生産は問題ないと言えよう。後は今後の天候と、中国が香港基本法問題から米国産農産物を買わないと宣告しており、今後米国の輸出がどうなるかが需給相場を占うこととなる。

長期的にはブラジルはトウモロコシと大豆を増産して、輸出余力も付けていく模様。世界の需要が増加する生産に対してどうなるかが今後の注目点となるだろう。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。



発行元

株式会社コモディティ インテリジェンス
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692